

■**沢宣嘉** 公卿。尊攘派公家先鋒で、維新後ロシア全権公使になるも、赴任前に病没した。

さわのぶよし

・・・・・・・・1836＝ 京都で、権中納言姉小路公遂の三男に生まれる。

大塩平八郎乱1837＝ 1歳：

阿部正弘首座1845＝ **9歳**：

万次郎帰国・1852＝16歳：沢為量の養子となり、従五位下に叙せられ、

ペリー来航・1853＝17歳：主水正に任ぜられた。

開国開港・・1854＝**18歳**：

松下村塾・・1856＝20歳：従五位上に昇った。

五ヶ国条約・1858＝22歳：***幕府が日米修好通商条約締結の許可を奏請するにあたり、同志廷臣権大納言中山忠能ら88人の列参に加わり、勅裁案の修正をはかる。ついで三条実美らの尊攘派公家や諸藩尊攘志士と交遊し、攘夷論を高唱。**

桜田門外変・1860＝24歳：

8月18日政変 1863＝**27歳**：***権大納言正親町実徳ら12名とともに書の中川宮・関白鷹司輔熙らに呈し、庶政を刷新し、速かに攘夷の国策を決せられんことを建言、さらに国事寄人に任ぜられ、同じ国事寄人5人と連署して、攘夷親征を天下に布告すべしと建言したが、〈8月18日の政変〉によって参内・他行・他人面会を禁ぜられ、三条実美ら7卿の一員として海路周防国三田尻に至り招賢閣に入るとともに、官位を奪われ、宣と改名した。この時、大和の天誅組に呼応して但馬国生野代官所を襲撃するという筑前藩士平野国臣らの計画に賛成し、海路播磨国から北上、代官所を占拠したが〈生野の変〉、近傍諸藩兵によって鎮圧され、一党は離散、宣嘉は重囲を脱して美作・備前を経て、讃岐に至り、さらに伊予を経て、**

禁門の変・・1864＝28歳：**長州に帰り、はじめ下関の白石正一郎邸に入り、ついで長州藩内各地を転々として潜伏。一族からも義絶され、三条実美らが九州太宰府に移っても、1人潜伏を続け、**

大政奉還・・1867＝31歳：**王政復古とともに位階を復せられ、義絶をとかれる。**

明治維新・・1868＝32歳：***長州より帰京し、直ちに参与、九州鎮撫総督兼外国事務総督となり、ついで長崎裁判所総督となった後、参与を免ぜられ、長崎府知事、**

戊辰戦争終・1869＝33歳：再び参与、外国官知事後、**官制改革によって外務卿となり従三位に叙せられ、**

初の日刊新聞1870＝34歳：条約改正について条約所定の交渉期日を待って商議を開始する旨を通告、条約改正交渉の発端となる。

廃藩置県・・1871＝35歳：盛岡県知事を経て、

学問のすすめ1872＝**36歳**：

明治6年政変 1873＝37歳：***露国駐在特命全権公使に任命されたが、病のため赴任するに至らずして、没した。**